

2020年 同窓生の新刊紹介

上原 昇 (2組)

昨年(2020年)はこれまでになく、高校同窓生の著書が何冊も上梓され、世の中で話題になった本もいくつかありました。関東同窓会会報やHPでその都度お知らせしていますが、以下纏めて6冊紹介します。

なお、同期(65期)による新刊につきましては、本編に続いて「同期編」を準備・掲載させていただきます。

コロナ禍で巣籠りのせいもあり、本に接する機会が多い昨今です。

関心のある方は取り寄せてご覧ください。

NO	題名	著者名(期)	出版社	刊行年月
01	日本を開国させた男、松平忠固	関 良基 (86期)	作品社	2020. 6
02	三島由紀夫事件 50年目の証言	西 法太郎 (75期)	新潮社	2020. 9
03	幻のオリンピック	酒本 歩 (78期)	光文社	2020. 3
04	なんとかせい! 島岡御大の置き手紙	丸山清光 (70期)	文芸春秋	2020. 9
05	新型コロナウイルス 7つの謎	宮坂昌之 (64期)	講談社	2020. 11
06	お気の毒な弁護士	山浦善樹 (63期)	弘文堂	2020. 12

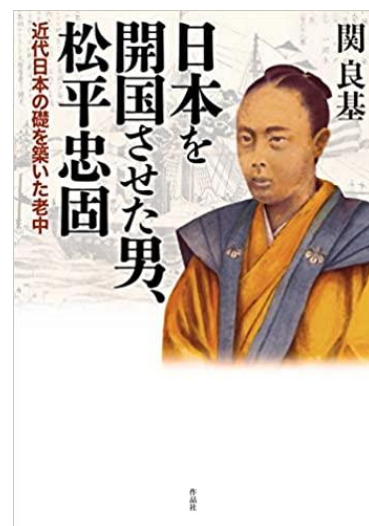
1. 関 良基 (86期、上田市緑が丘出身、拓殖大学教授)

『日本を開国させた男、松平忠固 近代日本の礎を築いた老中』
本書は会報101号で紹介しています。

65期HPでは布施修一郎君(6組)の紹介文(2020年7月28日)を掲載しています。

新聞・雑誌などの書評欄でも高い評価がなされています。

上田藩主、松平忠固の再評価のきっかけとなるでしょう。



2. 西法太郎 (本名: 西沢裕彦、75期、上田市緑が丘出身三菱商事を経て作家に)

『三島由紀夫事件 50年目の証言 警察と自衛隊は何を知っていたか』

前作『死の貌 三島由紀夫の真実』(17年12月、論創社)に続く三島本の第2弾となります。

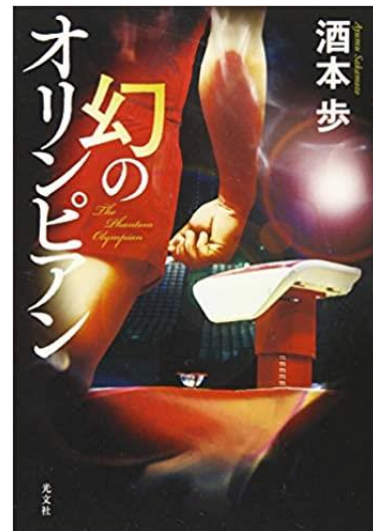
裁判記録などの地道な収集と綿密な解析が説得力となり、ぐいぐいと読ませるノンフィクション作品です。

昨年は三島事件(昭和45年11月25日)後50年で話題沸騰、各種メディアで

たくさん紹介されています。私の家の近くの書店でも本作が何冊も平積みされ、重版もされているようです。



3. 酒本歩（本名：和田剛浩、78期、坂城町出身、リクルートを経て作家に）
『幻のオリンピック』（光文社より3月25日刊）
会報101号「うえだ人」コーナーで詳しく紹介しています。

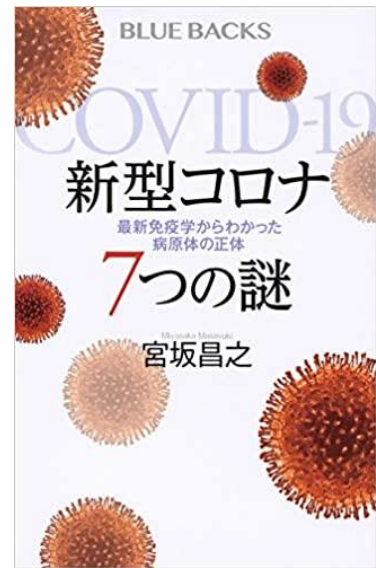


4. 丸山清光（70期、長門町出身、明治大学野球部主将、朝日新聞入社、現在は北海道信州グッドラボ代表）
『なんとかせい！島岡御大の置き手紙』
関東同窓会の新年会（21年1月16日、リモート参加もあわせ開催）で丸山さんによる本作に因んだ講演会が行われ、盛会に終わりました。
本作の売れ行きも上々だそうです。
講演会の内容は、関東同窓会HPをご覧ください。
会報101号でも紹介しています。



5. 宮坂昌之（64期、上田市大手出身、元日本免疫学会会長、
大阪大学名誉教授）

『新型コロナ7つの謎』（講談社ブルーバックス）
宮坂さんの前作の『免疫力を強くする』（19年12月、
講談社ブルーバックス刊）と併せてお読みください。
また、月刊『文藝春秋』21年2月号、特集「第二次コ
ロナ戦争」で、宮坂さんによる「コロナワクチン本当
に安全か」の記事が掲載されています。



6. 山浦善樹（63期、丸子町出身、弁護士、元最高裁判事）

『お気の毒な弁護士 最高裁判所でも貫いたマチ弁
のスキルとマインド』

65期HPで紹介しています。



(2021年1月記)